



乾杯

アベサミス チャルス アルチャガ
ABESAMIS CHARLES ARTIAGA

私は、研修生として日本で四年目を迎えました。家族とはなれるのはとてもさみしいですが、毎日頑張って仕事をしています。会社には私と同じようなフィリピンからの研修生が、他に五人います。年齢も、日本に来た時期もバラバラですが、とても大切な仲間達です。

フィリピン人はパーティーが好きです。正月やクリスマスなど特別なイベントの時はもちろん、普段でも夕方になって太陽が陰ってくると、近所の人同士でお酒や食べ物を持ち寄ってパーティーをします。社長はその習慣を知っているので、私達のために時々バーベキューパーティーをしてくれます。日本に来て初めて社長の家でパーティーをしたとき、私はとても驚きました。それは、日本人が食事の前にしていたある動作が、フィリピンと全く同じだったからです。それは「乾杯」です。フィリピンでは「ターガイ」といいます。食事の前に、みんなで楽しい時間を持てることを喜び、みんなの健康と幸せを願ってグラスを合わせます。私はこの時のグラスが鳴る音は、幸せのメロディーだと思っています。日本とフィリピン、遠く離れた国なのに、人々が同じ動作でお互いを想い合っていることに、私はとても感動しました。そして同時に、フィリピンのことを懐かしく思い出しました。

私がまだ子供の頃、フィリピンでとても流行っていた歌があります。エイプリルボーイズ

の「サナイ ラギン マカピリン」という歌で、日本の「乾杯」という歌をカバーした曲です。その頃は自分が将来日本に行くとは思ってもみませんでした。でも、初めて聞いたときから、私はこの歌が好きでした。そして、日本に来てオリジナル曲の歌詞を知って、もっと好きになりました。

「乾杯！今君は人生の大きな大きな舞台に立ち 遥か長い道のりを歩き始めた 君に幸せあれ」

この歌は友達の結婚を祝う歌です。でも私は、私を応援してくれる歌だと思っています。

私は今、研修生として、日本という大きな舞台に立っています。最初、三年という研修期間はとても長い道のりに感じられました。でも、本当は人生の中のほんの一部、始まりにすぎません。なぜなら、私の目的は研修生になることではなく、日本の技術をフィリピンに持ち帰って国のために活かすことだからです。私はまだ、そのための道のりを歩き始めたばかりなのです。

日本に来て三年間を過ごすうちに、私は最初に持っていた頑張ろうという気持ちを少し忘れてしまっていました。この歌は私にそれを思い出させてくれました。これら迷ったり、困難にぶつかったときは、この歌を聞いて頑張ります。そして日本の技術をフィリピンに持ち帰り、家族を、国を幸せにしたいです。